

論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第53号	氏名	小松 利光
学位審査委員	主 査 副 査 副 査	相川 忠臣 田口 尚 森 望	
論文審査の結果の要旨 1 研究目的の評価 カロリー制限（CR）したラットに脂肪細胞から遊離して摂食を抑制する作用を持つレプチンを脳室内投与することで、カロリー制限によって起こった摂食に関与する神経内分泌系遺伝子の変化が戻るかを検証したものであり、研究目的は妥当である。 2 研究手法に関する評価 CR ラットの視床下部弓状核の神経内分泌遺伝子の発現におけるレプチン脳室内投与の効果をリアルタイム PCR 法で解析したものであり、研究手法は妥当である。 3 解析・考察の評価 CR ラットにおいて弓状核 NPY、AGRP、CART-mRNA 発現量が有意に変化し、レプチン脳室内投与によってこれらの変化はほぼコントロールレベルまでに戻った。POMC-mRNA 発現量に変化はなかった。また、CR 群へのレプチン脳室内投与による摂食量の抑制は、神経内分泌系の遺伝子発現変化と一致している。このことから、弓状核へのレプチンシグナル伝達が CR による神経内分泌の変化に関与することがわかった。しかし他のシグナル伝達系も関与しているものと思われる。 以上のように本論文は摂食と老化の研究に貢献するところが大であり、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。			